

観光で受け入れ 要介護支援学ぶ

豊見城市で講座

【豊見城】市地域雇用創造推進協議会は6日から10日まで市役所で、厚生労働省受託事業の地域密着型人材育成プログラムの一環として、介護スキルアップセミナーを開いた。市内外の約20人が受講。NPO法人日本トラベルヘルパー協会(東京)のスタッフらが講師を務め、観光旅行で高齢者や障がい者を受け入れる際の支援について講座や街中で

の実技で学んだ。

講師の1人となったトラベルヘルパー協会の篠塚恭一理事長は「沖縄は観光資源が豊富。観光と介護を結び付ける人材を育て、介護が必要でも沖縄へ行けば楽しませてくれるという環境をつくるのが大事」と意義を話した。

受講生で、パートで訪問介護をしているという女性(55)は「以前から興味がある分野だった。せひ資格を取得して、必要としている人たちに、仕事やボランティアで関わりたい」と話した。